

# エネルギー環境教育のひろば

北海道エネルギー環境教育研究委員会  
組織誌発行  
2008.12.8発行  
第14号



## 大会概要

### 第2回北海道エネルギー環境教育研究大会開催

十月十七日(金)、函館市立駒場小学校を会場に「生きる力」を培うエネルギー環境教育の実践、学校教育におけるエネルギー環境教育の在り方について」を研究主題に、北海道教育庁渡島教育局吉田一昭局長、函館市教育委員会多賀谷智教育長を来賓に迎え、第二回北海道エネルギー環境教育研究大会を



開催した。雨模様の中であつたが、会員の他、一般参加者など約二四〇名の参加をえて盛会のうちに終了した。

早朝よりの多数の参加者のもと、九時四十分から函館市立駒場小学校による授業公開が始まった。  
小学校では【生活二年】萩森敦史教諭「風よ、ふけ、ふけ」、【社会三年】渡川仁教諭「見直そうわたしたちのくらし」、【理科四年】半田啓一教諭「電気のはたらき」、【社会五年】佐藤知教諭「工業生産を支える人々」、【家庭科六年】齋藤英代教諭「伝えよう！ありがとうの気持ち」の五授業。中学校では

### 第三回北海道エネルギー環境教育研究大会開催

本会はエネルギー環境教育の推進を図ることを目的として平成14年に設立された団体である。その間、エネルギー環境教育に関心をもち教育関係者の実践的研究交流の場として大きな役割を担ってきた。

今回の大会では、体験活動を取り入れた創造性に富んだ



エネルギーを軸教科とする環境教育あるいは「エネルギー」に関する内容を中心とする環境教育ととらえることが大切で、あらゆる教科と領域において基礎的あるいは発展的に取り組んでいくことが強く求められている。(中略)

授業を見ることができ、大変勉強になった。これらの経験が実際の生活に生かされることが重要だとあらためて認識させられた。



【理科二年】函館市立深堀中学校丸山伸一教諭「化学変化と原子分子」の一授業を行い、多くの参加者から授業内容や取り組みに対して高い評価を得た。

新しい学習指導要領を紐解いていくと、未来に生きる子どもたちにとって、このエネルギー環境教育を学ぶことが重要であるということがわかる。また、学校教育において、今後ますます「本質」として取り組まなければならない課題である。

### 山下宏文氏の講演の要旨

エネルギー問題は、現実の社会が直面している問題である。特に資源の乏しい日本においては、エネルギー環境教育は早急に取り組む必要がある。この取り組みは、海外では既に様々な国々で真剣に取り組まれている。日本の学校教育についても、教育課程への位置づけを明確にし、学校教育全体で見通しをもった取り組みが求められている。

北海道エネルギー環境教育研究委員会  
連絡先  
北海道エナジートーク21  
札幌市中央区北1条西5丁目  
北1条三井ビル2F  
TEL-011(251)9710  
FAX-011(251)3974  
\*\*\*\*\*